

日本語版M-CHATを用いた、親の記入データと専門家の直接観察データとの乖離 —その2：知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害の場合—

Psychological assessment for toddlers with autism spectrum disorder and mental
—retardation (Part 2): From parental reports and clinical observation—

玉井 創太¹⁾・石井 智美²⁾・日戸 由刈³⁾

Tamai Sota, Ishii Tomomi, Nitto Yukari

1. はじめに

自閉症スペクトラム障害（ASD）の幼児期の状態の把握にあたり、親の記入や聞き取りは有用な情報となる。しかし、早期の段階では、親と専門家の間にはしばしば状態のとらえ方に違いが生じる点がこれまでに報告されている。

石井ら（2013）は、知的な遅れのないASDの2-3歳児22名を対象に、日本語版M-CHAT（神尾・稲田，2006）を用いて、親と専門家の比較調査を行った。M-CHATは自閉症のスクリーニングを目的に開発された評価ツールであるが、石井らは親と専門家のとらえ方の違いを探る目的で使用することについて、開発者の承諾を得ている。

石井らの結果は、次の2点に要約される。1点目として、M-CHATの合計不通過得点のカットオフポイントは3であるが、対象となった親の中央値は2.5であり、半数（50%）がカットオフポイントを下回っていた。2点目として、親は専門家に比べて社会性やコミュニケーションの領域の評価は難しかったが、感覚の領域では3項目で専門家よりも有意に多く「不通過」と評価していた。この傾向は、Stone（1994）の先行研究と一致しており、かつM-CHATという低年齢のASDの評価に適したツールを用いた点が先進的であったと考えられる。

本研究は、親と専門家の認識の乖離について、石井ら（2013）の追試である。対象を知的な遅れのあるASD児とし、比較検討することで、幅広く早

期段階における親と専門家のとらえ方を明らかにすることを目的とする。

2. 方法

2.1 対象

YRC発達精神科を受診し、主治医のオーダーに基づき、X年度からX+1年度の2年間に「集団オリエンテーション」プログラムを利用した、知的な遅れのあるASDの3歳代の児15名の母親およびYRCで同プログラムを担当する療育者であった。療育者は、心理士1名と保育士1名であり、この2名が分担して15名の子どもの評価を行った。15名の子どもは全員、発達精神科の医師により、DSM-IVまたはICD-10の診断基準を用いてASDと診断されていた。子どもの性別は男14：女1、生活年齢は3歳0ヵ月から3歳10ヵ月、精神年齢ならびに発達年齢は1歳2ヵ月から2歳7ヵ月、IQまたはDQは34から69であった（表1）。

表1 対象者が評価した子ども

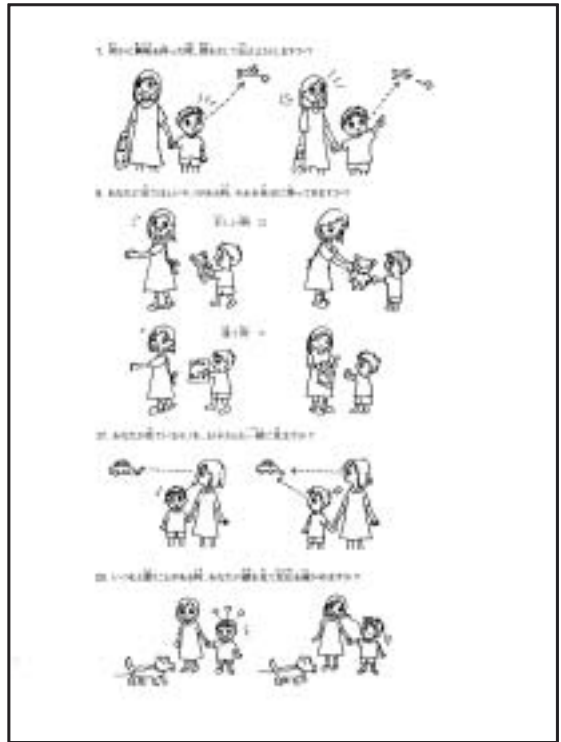
診断	自閉症スペクトラム障害
性別	男14 女1
生活年齢	3歳0ヶ月～3歳10ヶ月
精神／発達年齢	1歳2ヶ月～2歳7ヶ月
IQ／DQ	34～69
*IQは田中ビネー知能検査V、DQは新版K式発達検査2001にて算出。	

2.2 評価ツール

日本語版M-CHATを使用した（図1）。このツールは自閉症をスクリーニングする目的で発表された親記入式のチェックリストである。23項目で構成

- 1) 横浜市総合リハビリテーションセンター 発達支援部 療育課
- 2) 横浜市戸塚地域療育センター 診療課
- 3) 横浜市総合リハビリテーションセンター 発達支援部 ぴーす新横浜

1. お子さんをブランコのように揺らしたり、ひざの上で揺ると喜びますか？
2. 他の子どもに興味がありますか？
3. 階段など、何かの上で這い上がることが好きですか？
4. イナイナイパーをすると喜びますか？
5. 電話の受話器を耳にあててしゃべるまねをしたり、人形やその他のモノを使ってごっこ遊びをしますか？
6. 何かほしいモノがある時、指をさして要求しますか？
7. 何かに興味を持った時、指をさして伝えようとしていますか？
8. クルマや積木などのオモチャを、口に入れたり、さわったり、落としたりする遊びではなく、オモチャに合った遊び方をしますか？
9. あなたに見てほしいモノがある時、それを見せに持ってきますか？
10. 1, 2秒より長く、あなたの目を見つめますか？
11. ある種の音に、とくに過敏に反応して不機嫌になりますか？ (耳をふさぐなど)
12. あなたがお子さんの顔をみたり、笑いかけると、笑顔を返してきますか？
13. あなたのすることをまねしますか？(たとえば、口をとがらせてみると、顔まねをしようとしますか？)
14. あなたが名前を呼ぶと、反応しますか？
15. あなたが部屋の中離れたところにあるオモチャを指でさすと、お子さんはその方向を見ますか？
16. お子さんは歩きますか？
17. あなたが見ているモノを、お子さんも一緒に見ますか？
18. 顔の近くで指をひらひら動かすなどの変わった癖がありますか？
19. あなたの注意を、自分の方にひこうとしますか？
20. お子さんの耳がきこえないのではないかと心配されたことがありますか？
21. 言われたことがわかっていますか？
22. 何もない宙をじーっと見つめたり、目的なくひたすらうろろろすることがありますか？
23. いつもと違うことがある時、あなたの顔を見て反応を確かめますか？



日本語版M-CHAT
国立精神・神経センター精神保健研究所児童・思春期精神保健部
神尾陽子 より引用

図1 日本語版M-CHATの項目

され、はい・いいえの2件法で評価する。スクリーニングの基準であるカットオフ値は3項目である。本研究において、親と専門家のとらえ方の違いを探る目的で使用するについて、開発者の承諾を得ている。

2.3 手続き

日本語版M-CHATを用いて子どもの評価を行った。親に対しては、オリエンテーションプログラム中に行われる保護者教室の場で、心理士より趣旨説明を行い、記入を依頼した。療育者は、同プログラム内の集団療育の場で子どもを直接観察しながら記入を行った。日本語版M-CHATは親記入式のチェックリストであるため、療育者が記入する際には項目中の「あなた」を「療育者・保護者」に置き換えて記入した。療育者の観察者間一致率は83%で、Cohen κ 係数は0.66であった。不一致の項目は、協議の上決定した。

3. 結果

日本語版M-CHAT全23項目の合計不通過項目数

の中央値を算出した結果、親は4.0、療育者は11.0であった。M-CHATのカットオフポイントを下回ったのは、親が15名中8名(53%)、療育者はひとりもいなかった。ウィルコクソン符号付順位和検定(Wilcoxon signed-ranks test)を行ったところ、療育者の方が、有意に合計不通過項目数が多かった($p=0.0009$; 図2)。

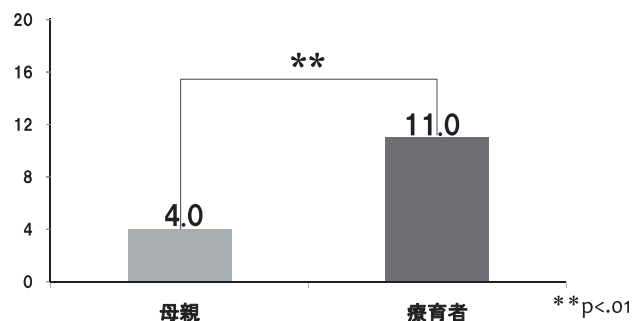


図2 全23項目の合計不通過項目数の中央値の比較

また、項目ごとに親と療育者が「不通過」と評価した子どもの人数について、直接確率検定(Fisher's exact test)を用いて比較した結果、10

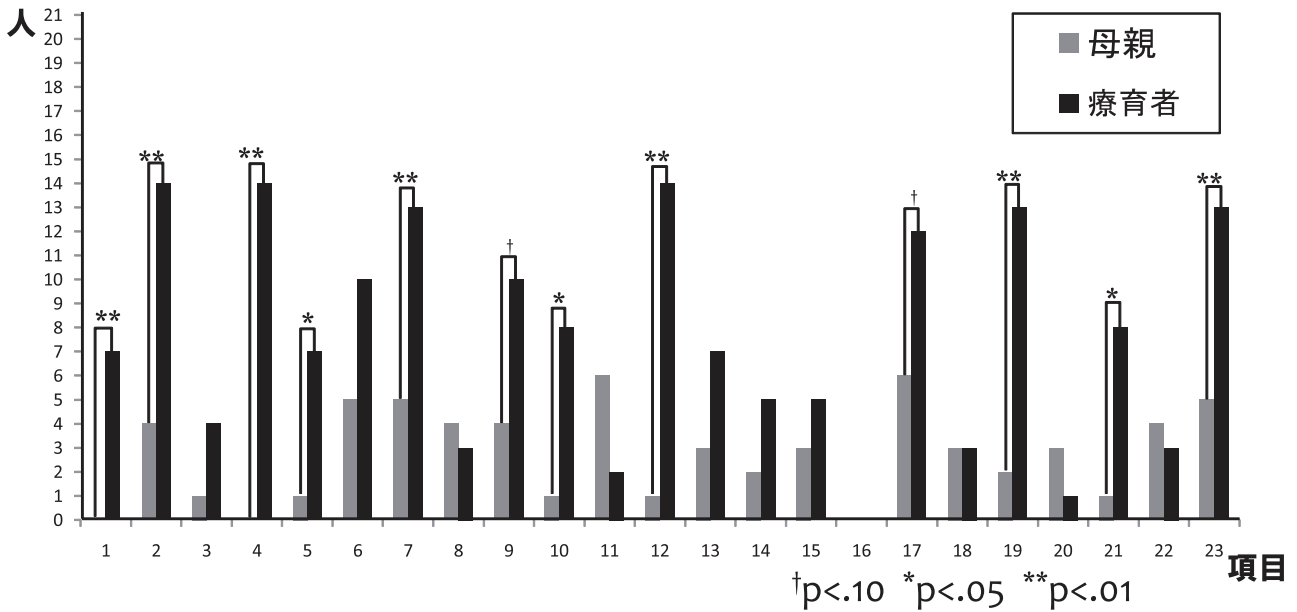


図3 項目ごとに、「不通過」と評価した子どもの人数の比較

項目で有意差が認められた (図3)。有意差が認められた項目は1「お子さんをブランコのように揺らしたり、ひざの上で揺ると喜ぶますか？」(p=.0014)、2「他の子どもに興味がありますか？」(p=.0001)、4「イナイナイバーをすると喜ぶますか？」(p=.0000)、5「電話の受話器を耳にあててしゃべるまねをしたり、人形やその他のモノを使ってごっこ遊びをしますか？」(p=.0325)、7「何かに興味を持った時、指をさして伝えようとしていますか？」(p=.0013)、10「1, 2秒より長く、あなたの目を見つめますか？」(p=.0002)、12「あなたがお子さんの顔をみたり、笑いかけると、笑顔を返してきますか？」(p=.0000)、19「あなたの注意を、自分の方にひこうとしますか？」(p=.0001)、21「言われたことばをわかっていますか？」(p=.0063)、23「いつもと違うことがある時、あなたの顔を見て反応を確かめますか？」(p=.0009)であった。有意差が認められた10項目は、療育者の方が親よりも多く「不通過」と評価していた。これらは全て社会性やコミュニケーションに関する項目であった (表2)。一方、有意差は認められなかったが、4項目において、親が療育者よりも多く「不通過」と評価していた (表3)。

表2 療育者が親よりも有意に多く「不通過」と評価した項目

項目	母親	療育者
1. お子さんをブランコのように揺らしたり、ひざの上で揺ると喜ぶますか？	0	7
2. 他の子どもに興味がありますか？	4	14
4. イナイナイバーをすると喜ぶますか？	0	14
5. 電話の受話器を耳にあててしゃべるまねをしたり、人形やその他のモノを使ってごっこ遊びをしますか？	1	7
7. 何かに興味を持った時、指をさして伝えようとしていますか？	5	13
10. 1, 2秒より長く、あなたの目を見つめますか？	1	8
12. あなたがお子さんの顔をみたり、笑いかけると、笑顔を返してきますか？	1	14
19. あなたの注意を、自分の方にひこうとしますか？	2	13
21. 言われたことばをわかっていますか？	1	8
23. いつもと違うことがある時、あなたの顔を見て反応を確かめますか？	5	13

表3 母親が療育者よりも多く「不通過」と評価した項目

項目	母親	療育者
8. クルマや積木などのオモチャを、口に入れたり、さわったり、落したりする遊びではなく、オモチャに合った遊び方をしますか？	4	3
11. ある種の音に、とくに過敏に反応し不機嫌になりますか？(耳をふさぐなど)	6	2
20. お子さんの耳が聞こえないのではないかと心配されたことがありますか？	3	1
22. 何も無い窓をしい一つ見つめたり、目的なくひたすらうろろろすることがありますか？	4	3

4. 考 察

本研究は石井ら (2013) の追試である。石井らの研究は知的な遅れのないASD児を対象にしたが、本研究は知的な遅れのあるASD児を対象にした。知的な遅れのある児は、知的な遅れのないASDよりもASDの症状が早期に観察されるため、3歳の時点において、ASDの症状が明確に表れていると考えられる。今回、知的な遅れのあるASD児を対象

にすることで、早期支援における親と専門家の認識の乖離について、より明確な示唆が得られると考えられた。

「感覚系の問題」について、知的な遅れのないASD児を対象とした石井らの結果は、専門家よりも親の方が有意に多く「不通過」と評価していた。それに対し、知的な遅れのあるASD児を対象とした本研究では、有意差はみられなかった。この要因として、知的な遅れのあるASD児は場所に関わらず感覚系の問題を示す頻度が高く、どのような場面であっても観察できるということが考えられた。知的な遅れのあるASD児の感覚系の問題については、親と専門家が共有しやすいものと推察される。

「約半数の親がカットオフポイントを下回ったこと」や、「社会性やコミュニケーションの領域において親と専門家の認識に有意な差が認められたこと」は、石井らの研究と本研究に共通する点である。これは、知的な遅れのあるASD児は、知的な遅れのないASD児に比べてその症状が顕著であるにも関わらず、知的な遅れのあるASD児の親が、社会性やコミュニケーションの領域をはじめとするASDの症状に気づけずにいたことを示唆する。社会性やコミュニケーションの問題は、感覚系の問題と同様に早期から出現するものであるが、それでもなお親は気づきにくいという傾向は注目すべきである。知的な遅れのあるASD児の親においてこのような傾向がみられるということは、知的な遅れのないASD児の親は、より子どもの社会性やコミュニケーションの問題を認識しづらいことが考えられる。

今回の結果より、知的な遅れの有無に関わらず、早期支援の時期に特有な親の気づきや認識上の課題が存在するかもしれない。今後、親と専門家の認識の乖離を広げるメカニズムについて、多角的な検討が必要だといえる。

親と専門家の認識について、知的な遅れのないASD児を対象とした石井らの報告と同様に、知的な遅れのあるASD児においても、専門家は早期評価の陥穽を真摯にとらえ、日常生活に関する親の報告に、慎重かつ丁寧に耳を傾けることが重要だと考えられる。一方で、親は専門家との間に生じる認識の乖離をきっかけとして、我が子の社会性とコミュ

ニケーションの問題を意識し、療育を受けることへのモチベーションが高まるかもしれない。これらのことから、親と専門家の中に生じる乖離の特徴を知り、その乖離を有効に扱っていくことで、支援をよりよいものにする可以考虑。

〔日本臨床発達心理学会 第8回全国大会

(2012年9月15日～16日、東京都)にて発表〕

参考文献

- 1) 石井智美・日戸由刈・玉井創太・武部正明・三隅輝見子：日本語版M-CHATを用いた、親の記入データと専門家の直接観察データとの乖離—自閉症スペクトラム障害に対する早期評価の陥穽（おとしあな）—。リハビリテーション研究紀要22：25-28, 2013
- 2) 神尾陽子・稲田尚子：1歳6か月健診における広汎性発達障害の早期発見についての予備的研究。精神医学48（9）：981-990, 2006
- 3) Robins D.L, Fein D, Barton M.L, & Green J.A : The modified checklist for autism in toddlers : An initial study investigating the early detection of autism and pervasive developmental disorders. Journal of Autism and Developmental Disorders 31（2）：131-144, 2001
- 4) Robins D.L, Fein D, Barton M.L, & Green J.A : Reply to Charman et al.'s Commentary on the modified checklist for autism in toddlers. Journal of Autism and Developmental Disorders 31（2）：149-151, 2001
- 5) Stone W.L, Hoffman E.L, Lewis S.E, & Ousley O.Y : Early recognition of autism: Parental reports vs clinical observation. American Journal of Diseases of Children 148 : 174-179, 1994